令和４年度災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練事業

実施報告書

現地訓練（中国・四国ブロック）

主催：一般財団法人　自治体国際化協会

実施受託：特定非営利活動法人　多文化共生マネージャー全国協議会

１．目的

本訓練は、災害時における中国・四国ブロック管内の地域国際化協会等の連携体制を確認・構築すべく、徳島県が被災した想定で、災害直後初動時の関係者間連携、県内市町村避難所と県「外国人相談支援センター」との連絡調整・連携を実施するものである。

今後の広域支援体制の強化を見据えて、中国･四国ブロック管内の地域国際化協会職員、県・政令指定都市の職員、総務省が実施する「災害時外国人支援情報コーディネーター養成研修」受講者、および徳島県内の市町村職員・市町村国際交流協会職員を対象として実施し、発災後に災害多言語支援センターを滞りなく設置し、基本的な運営ができるようになることを目標とする。

２．業務内容

中国四国ブロックにおける災害時多言語支援センター設置・運営訓練の実施に係る以下の業務

（１）日程・会場決定
（２）研修企画・事前打ち合わせ
（３）会場手配
（４）申込依頼・参加者とりまとめ、参加者名簿の作成
（５）外国人協力者の手配監理
（６）研修・訓練の資料準備
（７）研修・訓練の物品等準備
（８）会場設営
（９）研修・訓練の実施
（10）報告書作成

３．実施日時・会場

日時：令和４年１０月２７日（木）１０時～１５時半
会場：クレメントプラザ６Ｆ大会議室（徳島市寺島本町西１-61）

４．対象・定員

中国・四国ブロック管内の地域国際化協会職員
県・政令指定都市の職員
総務省が実施する「災害時外国人支援情報コーディネーター養成研修」受講者
徳島県内の市町村職員・市町村国際交流協会職員、徳島県外国人支援ネットワーク関係者等（徳島県、徳島県国際交流協会、市町村　市町村国際交流協会）　　４０名程度

５．研修テーマ

災害時多言語支援センター設置運営に係る広域連携

６．実施内容・スケジュール

時　間	内　　容
10:00～10:15	開会行事
10:15～11:20	【講義】「災害時における外国人対応と多言語支援センターの役割」 （一財）ダイバーシティー研究所　代表理事　田村　太郎　氏
11:20～12:20	【講義】「豪雨災害時の佐賀県災害多言語支援センターの活動」 （公財）佐賀県国際交流協会　理事長　黒岩　春地　氏
12:20～12:30	諸連絡
12:30～13:30	昼食
13:30～15:00	【訓練】「災害多言語支援センターの立ち上げと初動対応（演習）」 （一財）ダイバーシティー研究所　代表理事　田村　太郎　氏
15:00～15:30	【振り返り】 （一財）ダイバーシティー研究所　代表理事　田村　太郎　氏
15:30	終了

７．実施結果

この度の中国四国ブロック現地研修は、事前に委託元一般財団法人自治体国際化協会の現地訓練実施要項と今年度の同ブロック会長である公益財団法人徳島県国際交流協会の現地訓練に求める要望の両面をメール及び電話でのやりとりと講師陣のアドバイスを受けながら現地訓練内容をコーディネイトし、両者の思いをマッチングさせて現地訓練内容を決定した。

その結果、徳島県内の関係団体からの参加が多くあり、今後の多言語支援センターにおける支援体制を構築する上でも、現地訓練での対面による活動体験を通じて今後の課題の整理を行っていただいた。また現地参集訓練ということで、参加者同士の交流も活発に行われ広域ネットワークの構築を図ることができた。

９．参加団体一覧

都道府県	機関・団体	参加者数
鳥取県	鳥取県	１名
岡山県	岡山県	１名
	（一財）岡山県国際交流協会	１名
広島県	（公財）ひろしま国際センター	１名
	（公財）広島平和文化センター	１名
山口県	（公財）山口県国際交流協会	１名
徳島県	徳島県	４名
	（公財）徳島県国際交流協会	７名
	徳島市	１名
	鳴門市	１名
	佐那河内村	１名
	松茂町	１名
	板野町	１名
	つるぎ町	１名
	阿南市国際交流協会	１名
	吉野川市国際交流協会	１名
	阿波国際交流協会	２名
	藍住町国際交流協会	１名
	NPO 法人あったかいよう	１名
	多文化共生を考える会「ともに」	１名
香川県	香川県	１名
愛媛県	（公財）愛媛県国際交流協会	１名
高知県	高知県	１名
	（公財）高知県国際交流協会	１名
合計	２４団体	３４名

１１．参加者の声

- マニュアルに書いてないと、これだけ考えないといけないのかということを気づいたし、動けないということに気づいた。
- 外国人の方向けに日本語をそのまま訳しても伝わらない。日本人が持っている災害時の普通は文化が元にあるから。
- ただ翻訳するだけでなく、状況にあった翻訳をしないといけないこと（外国人にストックがない前提で）外国人だけでなく周りにいる日本人にも配慮が必要なこと
- 「実際に動ける災害時の対応」について今後を考える必要性を痛切に考えさせられました。訓練はしていますが、今のところ机上の空論状態のようです。ちゃんと動くには！！をしっかり考えたいです。
- 立ち上げの際の困難さ。在宅でもセンター連絡ができるということ。(現時点での立ち上げの実績がないため勉強になりました。
- コロナの影響下でボランティア活動が変化してきていること。日本人と外国人では日本での災害についての基礎的な情報、知識の量がまるでちがうこと。
- 訓練しても計画しても計画通りにはいかないので、そのために何度もシュミレーションし、実施訓練していくことが大切だと思った。
- 今年の夏台風が接近して中国内を頻繁に車で長距離移動する外国人に正確な情報を与えられなかったことを反省していた。今後どういう事を伝えるべきか、考え、話し合う手立てがわかってきた。
- 日頃からのつながりを大切にしていきたいと感じ、外国人の方たちに災害前から防災意識啓発につとめたいと思います。
- 災害の規模や被害者状況の具体的情報を共有したほうが、ディスカッションが進めやすかったように思える。実際大災害が起こった時にシンプルに任務遂行出来ればいいのでは？と今は思っています。
- 私の所属団体の外国人災害時支援については、何もわかってないし、聞こえてもきません。この講習で学んだことが、少しでも地元に役立つように皆で共有させていただきます。

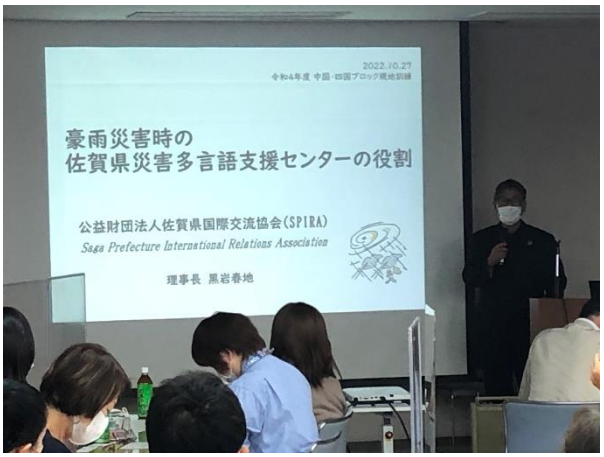
10. 記録写真

＜開会挨拶＞

＜会場風景＞

＜講義：田村氏＞

＜事例紹介：黒岩氏＞



＜訓練風景＞

以上